

あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日 / 2009年11月1日 ●発行所 / (財) 淡海文化振興財団

No.

71

2009年
11・12月号

特集 ● 淡海トピックス

「市民活動とお金のはなし」

■NPO さぼーとぼけっと ①

市民活動のプレスリリース
～その③～取材を受けたら

■市民団体活動紹介 NPO のわっ ⑤

- 特定非営利活動法人 経営支援リエゾンオフィス
- 特定非営利活動法人 大津祭曳山連盟
- 多賀クラブ

■あうみネット★INFORMATION ⑦



ひこねば 2009 HIKONE - BA

日時 ● 10月31日(土) ～ 11月29日(日)
場所 ● 彦根市内および周辺地域
参加費 ● 無料(一部有料イベントもあり)
連絡先 ● ひこね市民活動センター
TEL・FAX : 0749-24-4461



市民活動を広く多くの方に紹介・発表し、様々な人々の交流の場となることを目的に開催。約1か月間さまざまな活動を体験・見学し、シールラリーで回っていただきます。この機会に気になる団体をのぞいてみては？
ひこねば2009のパフレットをひこね市民活動センターなどで配布します。

第11回あうみ犯罪被害者支援フォーラム

日時 ● 11月17日(火) 13:30 ～ 16:30
場所 ● 大津市におの浜 ピアザ淡海 ピアザホール
参加費 ● 無料(事前申し込み必要。下記の連絡先にお申し込み下さい)
連絡先 ● 特定非営利活動法人あうみ犯罪被害者支援センター事務局
TEL・FAX : 077-527-5310



もし、あなたや家族が犯罪の被害に遭ったら…。第1部は、被害を受けた人らで作る人形劇団が実体験を基にした糸あやつり人形劇を上演。第2部はパネルディスカッションで被害者の現状や支援のあり方を考えます。

運営委員 VOICE

「出会いはたから」

大河原佳子
（甲賀市国際交流協会 事務局長）



2001年、湖国21世紀記念事業の一環として旧水口町で町民と行政が一緒になって創り上げた「みなくち21世紀記念事業」が私にとって「市民活動との出会い」でした。

町内各種団体より委員が選出され、私は国際交流協会より委員会に出ることになり、それぞれ違う分野で活動をしている者が夜遅くまで熱く議論し、「自分たちのまちは自分たちでつくる」「夢をかたちに！」をテーマに、新世紀へのカウントダウン、イルミネーション、みなくち子ども宣言の策定、子どもサミット、2001人の人文字、ステージイベントなどを実施しました。そして、事業が終わってから「夢作戦みなくち21」と名称を変更し、今も当時のメンバーと活動を続けています。

国際交流やまちづくり活動を通じて出会った人たちは、私にとってかけがえのない「たから」であり、元気の源となっています。

※運営委員は、市民の意見を当財団の運営に反映するため、公募も取り入れた委員を設置しています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

「OH! 魅力(淡海力)的な人のつながり」

5期生 荒川 茂美(あらかわしげみ)
グループ：シンク「環境」コミュニティG

Ohmi Miraijyuku Relay Essay



私たちのグループは年齢差なんと30歳。滋賀だけでなく奈良からも個性的な面々が集まり、環境をキーワードに省エネルギーから創エネルギー・環境教育まで取り組み、おうみ市民活動屋台村ではワークショップも開いたりしました。未来塾は同期生だけでなく個性的でエネルギーあふれる先輩・後輩たちがいっぱい。ほんやりしているとなかなか出会えない人たちとの出会いこそ「OH! 魅力(淡海力)」です。何かしよう、人生をおもしろく過ごそうとしている人たちと熱く語りあえたとても貴重な2年間です。

私は「心象絵図」という地域の昔の暮らしを聞き取り絵にする事業で、世代のちがう人たちをつなぐ仕事をしています。生まれた地域を愛し、誇りに思うことはまちづくりの原点。この絵図を介して、より多くの人たちにも感じてほしいと願ってガンバっています。

※おうみ未来塾は、地域の課題解決を実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。

●NPOさぼーとぼけっと●

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

NPO SUPPORT POCKET

市民活動のプレスリリース ～その③～取材を受けたら

さて、プレスリリースについての連載も最終回。プレスリリースをして新聞社などから取材について連絡が入った場合、また記事掲載がされた場合、その後の対応などをご紹介します。

■事前の告知について連絡が入ったら

プレスリリース後、新聞社などからイベントの事前告知について連絡があるかもしれません。日時や会場、イベントの内容について確認されます。その際には、担当記者の名前や連絡先を聞くこと、掲載される月日を確認することを忘れずに。掲載されたら保管して活動の記録にしていけることができます。もしイベントの内容などに変更があった場合は、すぐに連絡をしましょう。また、当日の取材についてもお願いしたいですね。

■当日の取材対応について

イベント当日は、必ず記者対応の担当者を決めておきます。取材される場合は、受付で名刺を出して取材の旨を告げられるので、担当者が対応します。担当者も名刺を用意しておきます。取材後、当日の参加者人数やイベント内容や主催団体の活動全般について事後確認が入る可能性があります。取材の際には、掲載予定の月日も確認しておきましょう。

イベント当日は、限られたスタッフで運営することが多いと思いますが、担当者を決めておき、担当者が取材への応答

を準備して対応することで、アピールしたいことをしっかり伝えることができます。



■プレスリリースも人のつながり

事前告知の掲載があった場合もイベント当日に取材があった場合も、担当の記者へお礼のメールや連絡を入れます。イベント終了後すぐに連絡を入れましょう。記事が掲載された後にも必ず連絡を入れます。お礼を伝えるのと、今後も団体の活動を応援していただきたいとお願いしましょう。

記者の方とも人のつながりです。イベントや講演会などでは、参加者をどう次の活動へつなげるかと工夫されると思いますが、取材などをきっかけに出会えた記者の方とのつながりも大切にしていきたいですね。日頃から小さな活動でもお知らせすることで、日常的に応援していただけるおつきあいになれるといいですね。

プレスリリースは、広く多くの人へ活動を知らせたい。新聞などマスメディアに取り上げてもらいたい。という目的があるのですが、提供資料を作ることで、イベントや事業の目的を整理すること、団体の目的や概要を簡潔に表現することができます。

ぜひ、広報の方法としてプレスリリースに取り組んでください。



坂本文武さん●プロフィール

ウィタン アソシエイツ株式会社 取締役シニアコンサルタント、NPO 法人ソーシャル・イノベーション・ジャパン 常務理事
 米国 NPO への経営コンサルティングを経て、現在、企業への PR と CSR のコンサルティングを行う傍ら、CSR や NPO 経営に関する講師、執筆活動を行う。著書に『NPO の経営』（日本経済新聞社）、『ボーダレス化する CSR』（同文館）、『環境 CSR 宣言—企業と NGO』（同文館、2008 年）等。日本 NPO 学会理事、ファンドレイジング専門のコンサルティング会社ファンドレックス社外取締役、東京都中野区区民公益活動推進協議会委員ほか。米国非営利経営学修士号取得。

市民活動とお金のはなし

市民活動、NPOの活動を継続していくためには、お金について考えないわけにはいきません。NPOには5つの資金源、「会費」、「寄付金」、「助成金や補助金」、「委託金」、「事業収入」があります。これらのお金を集めるためには、どんな視点が必要なのでしょうか。また、市民の意思あるお金を市民活動につなげる仕組みとして、NPOバンクやコミュニティファンドが作られてきています。今回は、経営コンサルタントで、「NPOの経営」など市民活動とお金に詳しい坂本文武さんに教えていただきました。

Q NPOの五つの資金源について、その特性について教えてください。

A 大きく分けると「組織への信託金」としての「会費」、「寄付金」、「事業への補助金」としての「助成金・補助金」、「委託金」、そして「事業収入」があります。左下の図は、各資金源を経営者の視点で整理したものです。

「使途自由度」は、お金の使い道が決められているかどうか、「調達効率」は、一円を獲得するにあたって経費や時間をどの程度つきこむ必要があるか、を示します。

「会費」や「寄付金」は、NPOが目指す社会像や活動内容に共感して提供される一種の信託金です。

お金の使い道は経営者が決めてよい、との前提で拠出されますが、たとえば千円の寄付や会費をもらうために費やす時間や労力はそれなりにかかります。「会費」は一定レベルで翌年度も受領できることが見通せる資金ですが、会報などを作成して配布するような会員サービスを伴うため、手元に残る資金を計算しながら上手に管理する必要があります。

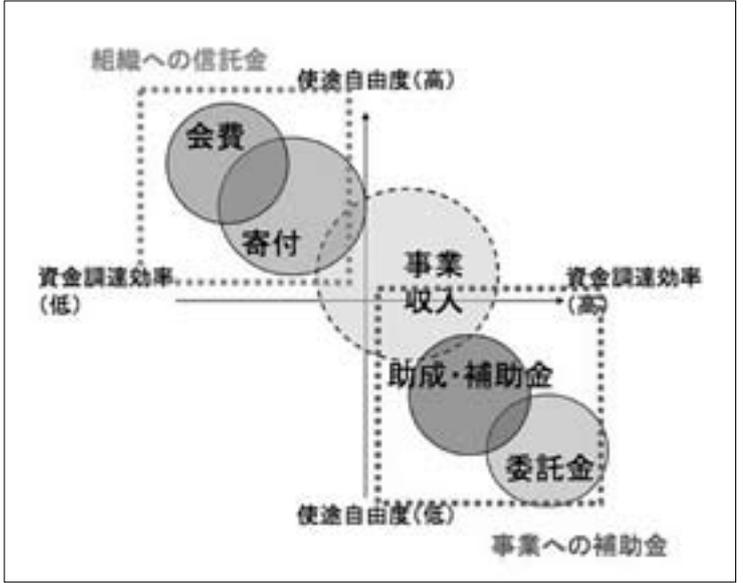
「助成金・補助金」は、特定の事業に提供される「補助」

的要素が強い資金です。一般的に人件費に当てることはできず、単年度で拠出されますが、事業経費を負担してくれれます。使途は限定されていますが、申請書を提出することで比較的まとまった資金を手に入れることを期待できます。

「委託金」も特定事業を請け負うことから、使途は限定されていますが、人件費込みで委託されることが多く、単独で収支を均衡させることが期待できます。

「事業収入」は、何らかの商品やサービスを提供することによる売上であり、売上から支出を除いた収益をいかに生み出すことができるか、が勝負どころです。図では点線にしているのは、収益の大きさにによって左右・上下に移動するためです。

「助成金・補助金」は、特定の事業に提供される「補助」的要素が強い資金です。一般的に人件費に当てることはできず、単年度で拠出されますが、事業経費を負担してくれれます。使途は限定されていますが、申請書を提出することで比較的まとまった資金を手に入れることを期待できます。



Q 資金を集めるための方法と考え方を教えてください。

A まず事業計画を決めてから、資金調達の作戦を練るべきです。集められる資金を先に考え、事業を設計してはNPOが組織として責任を果たすことはできなくなります。その上で、資金を集めるための第一歩は、自分たちでしか提供できない「社会へのお役立ち度(価値)を研ぎ澄ますこと、そしてそれを相手の関心に引き付けて語ることに神経を集中させることです。NPOの活動に資金的に協力をするには、相手にとっては「非日常的」行為ですし、NPOとの接点がある人は稀だと考えるほうが安全です。「あなたの団体を応援して自分にとって何の得があるのか?」「自分とは関係ない」と言われる場合があります。たとえば、近隣の森で行われるシカの食害対策活動と子育てをしている母親とをつなぐ接点をどう作るのか。障がい者

のグループホーム建設とサラリーマンとは、どのような接点でつながれるのか、を考え抜かなければなりません。NPOが自分の世界観だけで語る「オレオレトーク」にならないよう、相手が違えばNPOのお願いトークも異なることを心に留めるだけでも違う結果を生みます。あとは、トークを裏付ける実績や将来計画、正しい相手に正しい金額をお願いすることで。

共同募金会の調査では、趣旨を理解した人は、付き合いや同情で寄付をする人より一人あたり二割多い資金を提供している、との結果があります。相手を動機付ける対話の力が不可欠です。

Q 五つの資金はどんな割合で集めるのがいいのでしょうか?

A 多くの資金は単年度であり、善意や多様な価値観に基づいています。善意は熱しやすく冷めやすいものです。常に

動機を高める働きかけをしなければ、資金は継続されません。この不確実性の高い状態の中で、事業を継続的に展開すること、それに関わる職員の人件費や活動経費を捻出することを考えると、**財源の多様化**、が理想であると言えます。

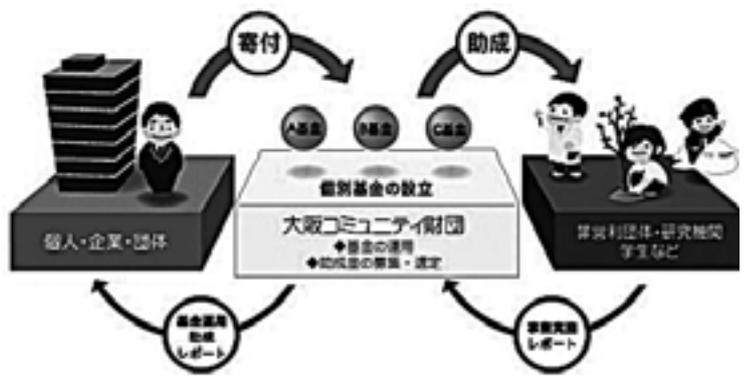
NPOの活動分野や収入規模を無視して一般化すれば、会費や寄付、事業収入の利益から人件費を出し、助成金・補助金や委託金から事業にかかる実費を補填するスタイルを目指します。多様化された財源を持つことで、仮にいずれかの財源が途絶えても、やりくりして事業を継続することが理論上は可能になります。ただしどの割合で多様化するかは、ケースバイケースです。

さらに資金の継続性を高めるならば、現在拠出いただいている資金の拠出単価を上げたり、更新確率を高めることです。たとえば、複数年支援してくれている寄付者は、その団体への理解と共感が深まっているはずですから、拠出額

を上げるよう働きかける「寄付者を育てる」発想は有用です。さらに会員や寄付者の継続を働きかけることは、新規の会員や寄付者を募るより確実性と効率性は高いことが言えます。

Q 市民活動へ市民のお金をつなげる仕組みとして、NPOバンクやコミュニティファンドが設立されてきていますが、成り立ちの目的と事例を教えてください。

A 市民から出資を募ってNPOの事業などに融資をする「NPOバンク」や「市民ファンド」、「コミュニティファンド」が全国各地に設立され、出資する市民が増えています。福祉や環境、街づくりなどに取り組むNPOは、多くの金融機関で融資を受けることができません。一方で金融機関に預けている自分のお金が何に使われているのか分からない、自分のお金を社会の役に立て



▲市民の「お志」が形になる大阪コミュニティ財団の個別基金

てほしい、と考える層が広がっています。この両者を結びつけるのが「NPOバンク」です。

一九九四年に東京で「未来バンク事業組合」が作られて以来、愛知県の「mom」や音楽プロデューサーの小林武史氏らが作った「ごびんく」など、現在全国に十二組織が活動中で、融資累計は十六億圓（二十億圓程度といわれています）。趣旨に賛同する市民や団体が小口の資金を出し合い、NPO

Oに年利一〜五%程度でおおむね一千万圓を限度に融資しています。これまでに「焦げ付き」はほとんどなく、地域でお金の流れが見えるこの仕組みは、各地に広がりつつあります。また、一九九一年に先進的に立ち上がった大阪コミュニティ財団のほか、奈良、神奈川などでは「コミュニティファンド」が同様の趣旨で活動しています。

このほか、行政が主導する動きもあります。千葉県市川市では、納税者の投票によってNPOなどの市民活動団体に市民税の一分を寄付するという制度を全国でも先駆けて開始しました。また、東京都杉並区では、寄付者がNPO法人を指定して杉並区のNPO支援基金に寄付する制度をいち早く作りました。この基金を通すことによって、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができます。この仕組みも全国に広がりつつあります。

政府の家計調査から、日本の寄

付市場は二千億圓程度、と推測することができます。NPO自身が自らの夢と具体的なプランを描き、寄付や会費を直接受け取る努力によって寄付市場を大きくしていくことは必要です。加えて、市民が出資によって市民活動を支えるこのような新しいお金の流れは今後も注目するべきでしょう。

Q 市民活動が、社会を変えるお金の流れを作ること、人々の意識、社会にどのような変化が期待されるでしょうか。

A NPOは新しい社会像や夢と、それに到達するための具体的に現実的な計画を示して資金を調達します。目の前に

ある不都合や困難に直面する人を応援する側面もありつつ、未来への投資を受ける、いわば料金前払いの業界です。夢と実現可能性に資金を提供するわけです。かつてオノ・ヨーコ氏は、「ひとりで見える夢は夢ではない。しかし誰かと見る夢は現実だ。」と言いました。多くの人がそれぞれに共感するNPOを応援し、自らの手で社会を変える機運が高まることは、NPOが描く夢が「現実」に変わる潮目になることでしょう。

お金が単なる消費の手段から、人のこだわりやライフスタイル、意思を「表現」する手段に「変革」してきています。社会を変えるお金の流れが少しずつ大きくなっています。



まとめ

淡海ネットワークセンターでは、市民の意思あるお金を滋賀県内で活動する市民活動・NPOへとつなぐために、おうみNPO活動基金への寄付を募集しています。個人の方の寄付、法人からの寄付など、いつでもご連絡、ご相談ください。社会を変えるお金の流れをみなさんと一緒に作っていききたいと思っています。

話

特定非営利活動法人 経営支援リエゾンオフィス(守山)

「リエゾン」ってなに?」……この素朴な質問に、常務理事の中出さんは、笑顔で応えてくれました。フランス語で、「協働」より幅広い意味合いを持った言葉「だそう」で、県南部地域を活動領域として産・学・官・民をつなぎ、「NPOプラットフォームの実現」を目指す企業OB集団です。構成員は約二十名で、設立は二〇〇三年五月。時、あたかも「二〇〇七年問題」いわゆる「団塊の世代」の大量退職期を目前に、彼らのセカンドライフ設計の受け皿としての意味が込められており、その先駆性には感嘆させられます。活動内容は、リーフレットを飾るキャッチフレーズがすべてを物語ってくれていますので紹介しましょう。●「地域

社会活性化のバイオニア」●「中小企業の支援組織」●「熟年パワーあふれるいきいき・はつらつ集団」といったところ。具体的な取り組みとしては、「新公益法人制度解説講座」「プレゼンテーションの極意」「さんさん歌おう会」や「歴史を巡る旅」など、まさに硬軟、多種多様、経営支



▲「さんさん歌おう会」では、仲間と心を合わせて歌っています。

援はもとより市民活動へのサポート、さらには市民の「居場所作り」もしっかりと視野に入れた運営がなされています。そこで、運営上の問題点として、二つ挙げていただきました。ひとつは「ご多分にもれず運営経費の捻出にはご苦労されている」様子。指定管理者制度にもとづき「市民交流センター」と連携を図り克服していたそうです。もうひとつは講師陣の指導レベルの問題。現役時代の肩書きだけでは物足らず、自己研鑽を重ね自然淘汰された結果が現状の姿だそうです。最後に、今後の課題は、多様な団体、市民が気軽に集まれる場づくりと夢は尽きません。そしてその先にあるものは、「新しい社会システムの構築」です。

(おうみネットサポーター 荒木 威)

特定非営利活動法人
経営支援リエゾンオフィス
代表●中川知博 設立●2004年 会員●約20人
連絡先●〒524-0022 守山市守山二丁目16-45
(守山市民交流センター 所長:中出弘一郎)
TEL: 077-583-2975 FAX: 077-583-4654
E-mail: mkoryu-c@usenet.ne.jp
URL: http://www.usenet.ne.jp/~mkoryu-c/



▲退職後の生き方を考える講座「地域デビュー」について

新しい社会システムの構築を目指します!

輪

NPOの

わっ

和

話

地域や社会を良くしていきたいと
がんばっている市民活動・NPOを紹介します。
興味を持たれた団体に連絡してみませんか?

おうみネットを一緒につくりませんか?

おうみネットサポーターを随時募集しています。
興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。

話



●リエゾンオフィスの「仲間づくり」講座。市民活動を始めるための初めのステップです。

輪



●大津祭の当日、お客様の案内体験をする「大津まちなか大学」の学生さん。

和



●多賀クラブの昼食会。丸いお膳を囲んで野菜中心のメニュー、なんだかつかしい日本の食事風景です。

町衆の心意気で、伝統の「大津祭」を次世代へつなぐ

湖国三大祭の一つである大津祭。豪華な装飾がほどこされた十三基の曳山が巡行し、お囃子とともにそれぞれの曳山で披露される「からくり」で有名な天孫神社の祭礼です。

江戸期に始まった祭は、長く地元の手によって守られてきましたが、一九五二年、伝統文化を引き継ぎ、観光にも活かすため、祭をサポートする「曳山連盟」が発足。二〇〇七年には、地域活性化や青少年の健全育成を視野に、さらなる発展のために法人化されました。以後、曳山展示館の運営受託とともに幅

広い活動を展開しています。三年前、「大津まちなか大学大津祭学部」



▲お囃子の稽古を体験する「大津まちなか大学」の学生さんたち。

を始めました。伝統文化としての「大津祭」を半年かけて学び、その魅力を伝える人材育成を目指しています。大津の歴史を学ぶだけでなく、祭の準備やお囃子の実地研修

もあり、卒業生は、「長柄衆」として、実際の祭のPRや案内などで活躍しています。「祭を広く知ってもらい、見るだけでなく、関わってもらおう人を増やすことが大事だ」と思います」と、事務局長の稲岡隆司さん。

祭礼当日の商店街の賑わいを普段のまちづくりにも活かしたいと、昨年、成安造形大学との連携で、公式キャラクター「ちま吉くん」を製作。また、「近江のまつりフォーラム」を通じて、他地域の祭と交流するなど、手をつなぐ人を増やしながら地域活性化をめざしています。

町衆によって伝えられてきた大津祭。その熱い心意気は、連盟のみならずにもしっかりと受け継がれています。

(おうみネットサポーター 松井由美子)

多賀には良いものがいっぱいある、古民家・多賀「里の駅」を拠点に多賀を元気にしたい

ことの始まりは、築二百五十年と言われる古民家の存続問題でした。

犬上郡多賀町の一円地区、野鳥の森近くにあり、一圓屋敷と呼ばれるこの古民家がNPO

法人彦根景観フォーラムに寄贈されることになったのは

一年前のことです。存続への協力の呼びかけに応じて集

地物野菜の即売：形は少々悪くても、新鮮な野菜や果物、雑穀類が安い。



▲地物野菜の即売：形は少々悪くても、新鮮な野菜や果物、雑穀類が安い。

まった六十名の人たちが広い屋敷や庭をきれいにしました。そして、この建物をどのように活用していこうかと、地元の人たちも集まって結成したのが、多賀クラブ(多賀を元気にする有志の会)です。

古民家は、多賀の文化を継承し、自然や地の産物を味わえる場として、里山と町をつなぐプラットフォーム、多賀「里の駅」と名づけられ、彦根景観フォーラムと協働して事業を実施してきました。

毎月第一土曜日に開催される野菜市は、地元産の新鮮な野菜や果物などの即売を行います。その後の「集い」は毎回テーマがあり、取材に伺った日は「多賀の食文化を語る」として、多賀小学校の生徒たちがシイ

鹿肉などが材料の「和の薬膳」のメニューで、調理を担当しているのは、代表の栗本さんら女性グループ。このグループは毎月二十日には多賀産のそば粉を使ったそば打ち体験も行っています。

多賀「里の駅」は大庄屋の屋敷で屏風や掛け軸なども残されており、「お宝」がたくさんありそうです。農産物の加工や農家レストランの計画もあり、多賀「里の駅」の独立採算を当面の目標に、多賀を愛し、多賀を元気にしていきたいという地元の人たちの思いが広がってきています。

(おうみネットサポーター 大山純子)

タケ栽培や沢庵漬けなどを体験し、地元野菜やお米を使った学校給食を続けてきた話を伺いました。

この日の昼食会は地元夏野菜やお米、鹿肉などが材料の「和の薬膳」のメニューで、調理を担当しているのは、代表の栗本さんら女性グループ。このグループは毎月二十日には多賀産のそば粉を使ったそば打ち体験も行っています。

特定非営利活動法人
大津祭曳山連盟

代表●白井勝好 設立●1952年
会員●約300名
連絡先●大津市中央1-2-27 大津祭曳山展示館内
TEL & FAX : 077-525-0505
E-mail : info@otsu-matsuri.jp
URL : http://www.otsu-matsuri.jp



▲豪華な曳山の「大津祭」。巡行には囃子方、山方、綱引きなど多くの人が関わっている。

多賀クラブ

代表●栗本泉 会員●8名 設立●2008年
連絡先●犬上郡多賀町一円149
TEL : 0749-48-1811 (多賀町商工会)
FAX : 0749-48-2188 (")
E-mail : tagacho@mx.biwa.ne.jp (")
URL : http://www.taga-station.com/



▲一圓屋敷：大庄屋の風格ある屋敷や庭廻り。畳敷きのトイレは伊井直島公用？



市民活動、NPO運営のご相談 いつでもどうぞ!

市民活動、NPOの運営についてご相談を受け付けています。お電話、メール、直接お越しいただいても結構です。ご連絡お待ちしております。

●最近の相談事例

 NPO法人として活動しています。最近、地域の企業から活動へ寄付を受けることになりました。10万円なのですが、受領書には収入印紙を貼る必要はあるのでしょうか? また、企業では、寄付は経費と認められますか?

 NPO法人への寄付は、課税対象にはなりませんので、収入印紙は不要です。会社や法人が寄付をする場合、一般寄付金として損金算入限度額を超えない限り、寄付した金額は税務上の経費とすることができます。損金算入限度額の計算式は
(1)資本等の金額(資本金)×2.5÷1000
(2)寄付をした事業年度の所得の金額×2.5÷1000
(3)((1)+(2))÷2となっています。

個人がNPO法人へ寄付する場合、寄付金控除を受けられるのは、国税庁から認定を受けた認定NPO法人のみとなります。

収入印紙については、国税庁ホームページの「NPO法人が作成する受取書」をご覧ください。
<http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/shitsugi/inshi/19/05.htm>

損金算入限度額については、国税庁ホームページタックスアンサーをご参照ください。
<http://www.nta.go.jp/taxanswer/index2.htm>

●ミニ講座：毎月第2金曜日

14:00～15:00

NPO・市民活動って何? NPO法人設立のメリット・デメリットは? NPO法人設立の手続きは? など市民活動・NPO活動についてのミニ講座を開催しています。お気軽にご参加ください。

淡海ネットワークセンター主催 地域づくりフォーラム パネル展示団体募集について

「映像」「地域サロン」や「地域ブランド」を切り口に「地域づくり」に取り組む事例から、それぞれの地域にある資源を見つけ、まちをもちあげ、人々をつなぐヒントをとともに考えるフォーラムを開催します。

会場では、地域づくりに取り組む市民活動団体・NPO、ボランティアグループなどのパネル展示を行い、参加者との交流をしていただきたいと思います。パネル展示をしていただける団体を募集します。ご応募お待ちしております。

●地域づくりフォーラムスケジュール(予定)
10:00～ 講演「地域にあるチカラ(仮)」
12:00～ 昼休み
13:00～ 各分科会 スタート
14:00～ パネルディスカッション各分科会報告
15:30～ パネル展交流会(出展者紹介など)
16:30 終了(17:00 閉場)

●会場：県民交流センター(ピアザ淡海)

●出展形態

ポスターや写真、活動に関する作品などの

展示による活動紹介です。

展示パネルボードのサイズはH168cm×W113cmです。パンフレットやチラシを置く長机を1台用意します。

●募集数：30団体(先着順)

●申込方法

申込書に必要事項を記入の上、12月20日までに、ファックス、郵送、Eメール等にてお申し込みください。申込書は淡海ネットワークセンターのHPからダウンロードできます。

●展示品等の搬入・搬出

搬入：1月31日(日)9:00～10:00

撤収：1月31日(日)17:00～18:00

●その他

出展料は無料です。展示物作成、搬入・搬出にかかる経費につきましては出展者の負担とします。

展示場所については、淡海ネットワークセンターで決定します。

市民事業まちづくり車座談義のお知らせ

地域の個性や魅力を高め、よりよい地域社会の実現に向け、活動をしている方々が日本全国にいます。「まちづくり」「地域おこし」の中心的な役割を担っているNPO法人えがおつなげて代表の菅根原久司氏を招き、開催します。

●日時：2009年12月13日(日)

●場所：県民交流センター(ピアザ淡海)

●内容：事例発表、ワークショップ、意見交換を通じて、市民事業開発のための心構えなど議論を深めたいと思います。

※詳細は、当センターのチラシ、ホームページをご覧ください。

滋賀県社会福祉協議会からのお知らせ ボランティア・市民活動研究交流会2009

昨年度までの「きづき・きかけ・きずなボランティア」をリニューアルします! 地縁組織との連携やボランティア活動するうえでの悩みを話し合う分科会など興味深いプログラムを企画しました。ぜひご参加ください! お待ちしています。

●日時：2009年12月12日(土)10:30～16:00(予定)

●場所：県立長寿社会福祉センター(草津市笠山7丁目8-138)

●問い合わせ先：滋賀県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉担当(ボランティアセンター)
TEL:077-567-3924

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■<http://www.ohmi-net.com>

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間/9:00～17:00 休館日/月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館、各地域環境総合事務所、県民情報室など

編集後記

「リエゾン…「協働」より幅広い意味合いをもった「つなぐ」という意味のフランス語。永年、探し求めていたものに出会った想いです。また明日から、新しいスタートがきれそうです。そんな取材活動でした。
(おうみネットサポーター 荒木 威)

大津祭をより多くの人に知ってもらおうと、ゆるキャラ「ちま吉」くんが誕生。京阪電車の「ちま吉トレイン」や「ちま吉切手」なども生まれました。まずはファン作りからという大津曳山連盟さんのねらい通り? 「ちま吉」くんのファンクラブまでできたそうですよ。
(おうみネットサポーター 松井由美子)

多賀の景色に溶け込んだ一圓屋敷のたたずまい、内部の作り手に感激しました。維持・管理はたいへんですが、多賀の「里の駅」として地域活動の拠点になることも「古民家再生」のひとつだと思います。
(おうみネットサポーター 大山純子)



非営利福祉金融機関として、様々な社会貢献・地域貢献事業を行っています。

●詳しくは <http://www.rokin.or.jp> まで **私たちは、近畿ろうきんです。**

社会とお金の
『良い関係』を
つくりたい。

